

「自転車安全利用五則」を守って事故防止!

1 自転車は、車道が原則、歩道は例外

●自転車では歩道を通行できるのは、以下の場合に限りです。

- ①「通行可」の標識・道路標示がある場合
- ②13歳未満、70歳以上、車道通行に支障がある身体障がい者が運転する場合
- ③道路工事や駐車車両などのために車道通行が困難な場合
- ④著しく交通量が多く、かつ、車道の幅が狭いなどのため、車道通行が危険な場合



2 車道は左側を通行



右側通行(逆走)すると、車と正面衝突する危険があります!

3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行



5 子どもはヘルメットを着用



4 安全ルールを守る

- 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
- 夜間はライトを点灯
- 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認



無灯火だと、ドライバーに見落とされやすくなります!

事故に備えて、「自転車保険」に加入しましょう!

令和4年 秋の全国交通安全運動

● 交通事故死ゼロを目指す日：9月30日(金) ●

運動期間 9月21日(水曜日)から9月30日(金曜日)までの10日間

スローガン 「知らせ合う 早めのライトと 反射材」

運動の重点 (1) 子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保

(2) 夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止及び飲酒運転の根絶

(3) 自転車の交通ルール遵守の徹底



交通安全家庭新聞

2022年

秋



備えて安心!

■ 厳しい暑さも和らぎ、屋外でのレジャーが楽しい季節となりましたが、自然のなかだけに、正しいノウハウを身につけ、装備もしっかり整えておかなければ、思わぬ事故を招く危険があります。

■ 交通場面でも同様、交通事故から身を守るためには、安全運転・安全通行のための正しいノウハウを身につけ、それをしっかり実践することが大切です。

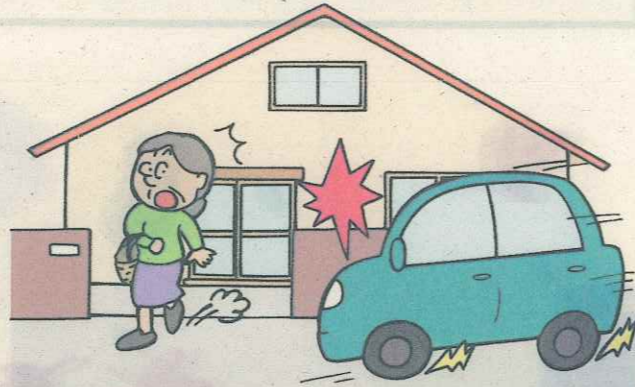
回覧

久慈市交通安全対策協議会*久慈市交通安全協会

歩行者の皆さん 危険な行動特性を自覚し、いつでも必ず安全な横断を実践しましょう!

1 自宅近くの道路では、安全確認を怠りがち…

- 特に自宅近くの交通量が少ない道路では、ふだんあまり車が通らないことを知っているため、油断して安全を確認めずにいきなり横断しがちです。
- 車はいつやってくるかわかりません。横断前に必ず一度立ち止まり、車がきていないか確認しましょう。



ドライバーは 特に住宅地の閑散とした道路では、歩行者がいないか探しながら通行!

2 横断中は、車に対する警戒心が薄い…

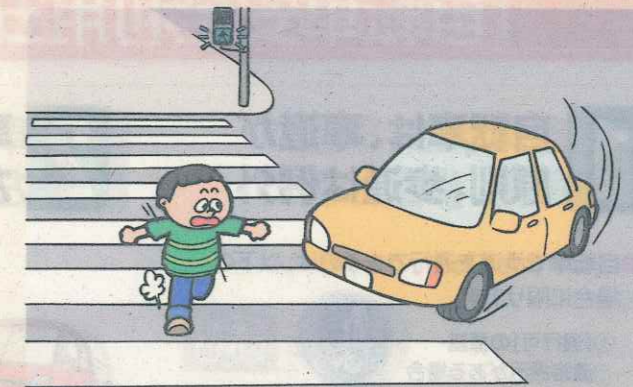
- 横断前に安全を確認めたのに、横断中は前しか見ていない…という無警戒な歩行者が少なくありません。
- 道路を渡り切るには意外と時間がかかります。特に道路を半分渡り終えた横断後半、いつの間にか左から車がきているかも…と警戒しながら渡りましょう。



ドライバーは 道路前方右側から無警戒に横断してくる歩行者がいないか確認!

3 信号が青だと、周りをよく見ない…

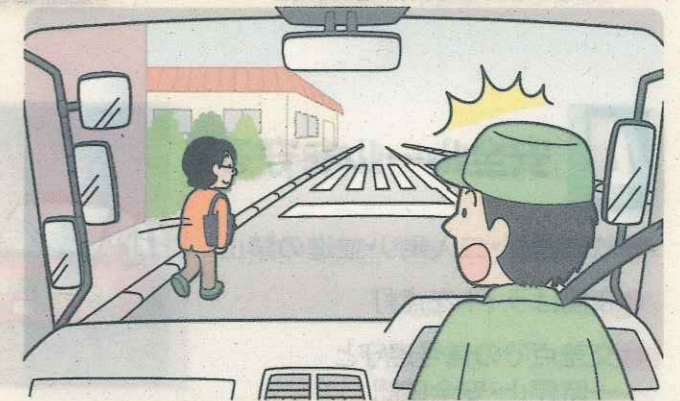
- 横断歩道の信号が青だと「歩行者が優先だから…」と油断し、周りの状況をよく見ないで横断しがちです。
- 横断歩道の信号が青でも、横断中の歩行者に気づかずに勢いよく交差点を曲がってくる車もあります。車が曲がってくるかも…と警戒しながら横断しましょう。



ドライバーは 右・左折するときは、横断歩道やその付近に歩行者がいないか必ず確認!

4 所かまわず、どこでも横断しがち…

- 近くに横断歩道があるにもかかわらず、横着して、所かまわず横断しがちです。
- 横断歩道付近から横断するとドライバーに見落とされやすい…という危険があります。近くに横断歩道があるときは、必ずそこまで行って横断しましょう。



ドライバーは 横断歩道があるときは、その付近から不意に横断する歩行者を警戒!

ドライバーの皆さん 夕暮れ時・夜間は、特有の危険を念頭に置いて、安全確認を入念に行いましょう!

①夕暮れ時は、帰宅する人などで交通が入り乱れやすい…



- この時期、帰宅時間と日没時間が重なり、薄暗く見えにくいなか、歩行者や自転車、車の往来が増えるため、事故の危険性が高くなります。

②帰宅や帰社を急ぐ心理から、安全確認が甘くなりがち…



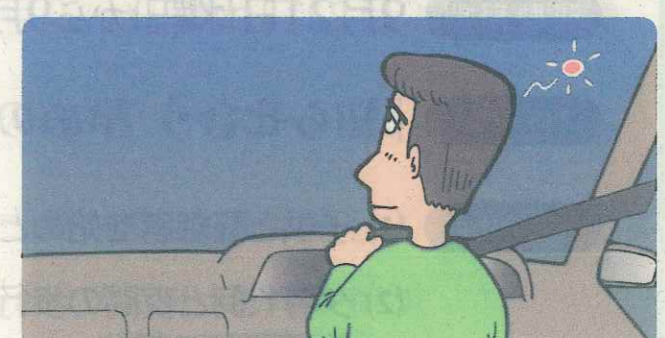
- 暗くなってくると、早く家に帰りたい、帰社したい…などと焦りが生じ、先を急ぐあまり他者(車)への目配りが甘くなりがちです。

③特に照明の多い街なかでは、昼間感覚のまま運転しがち…



- 実際にはよく見えていないのに、昼間の運転経験をもとに安易に状況判断をした結果、判断を誤って事故を起こす危険性が高くなります。

④仕事の疲労などにより、注意力が散漫になりがち…



- 人間は基本的に「昼型」の動物ですので、暗くなると心身機能は低下します。そのうえ疲れていると、なおのこと注意力は散漫になります。